京での大会に吸収してはどうか.

N：他の学会では，分科会を設けて，そこで発表した講演は学会の研究発表として認めるようにしている．気象学会でも，たとえば，“山の気象シンポジウム”のようなものは分科会で行う方がむしろのぞましいという場合もある．このよな方法を積極的に活用して研究発表を行うこともいいのではないか.

O：大会運営は現在のような方法のほかに2年に1回くらい，分科会方式というか，研究内容の比較的近い領域の人が集まって，1題目30分くらいかけて分科会を開くことはできないか．雲物理と地球化学などは名古屋で，力学，大循環などは東京で，境界層，大気汚染は仙台で開くということも考えていい時期にきているのではないか.

P：理事会側では講演数が多いから減らす必要があるという．しかし，発表する側の会員としては講演数の多いのは結構ではないかと考える．したがって，会場数を増やす，ああるいは日数を増やすという考え方が望ましい.

Q：きょう“天気”を開いて，はじめて予稿用紙がとじ込まれているのを知った．はじめはプログラムを組むとき，かつて行われたように講演要旨（印刷はしない）をテーマと同時に出したら内容がわかってよいだろう，せめてこれを復活したらどうか，という話をきいたが，それをさらに進めて，テーマと予稿を同時に提出することになったようだ．一つの試みであると思う.

R：学会の研究発表会を興味あるものにするためには，大会を全国の会員の交流の場になるようにする．開催地の大会運営に協力する人たちと理事会側との懇談会なども開くようにしてほしいという地方側の意見もある.

以上は討論参加者のうちの18人の意見を要約したものであり，講演企画委員会，常任理事会での大会運営についての参考意見となれば幸いである.

“大会運営について”衆知を集めたい

講演企画委員会

建設的な意見を寄せて頂き，有難うございます．御希望通り今後の大会運営に大いに参考にさせて頂きます.

講演申込みと予稿集の提出を同時にしたことは，今春季大会が初めてのことであり，講演企画委員会としては最大限の努力を致しましたが，必ずしも十分に会員に周知できなかったことは遺憾に思っております.

講演企画委員会では会合を持つたびに研究発表を活発にし，内容のある研究会にするためにはどうしたらよいか，何年間も討論を重ね研究して参りました．予稿集もその一環で，最初は反対意見も多く耳にはいりました．しかし，いまでは賛成意見が多いようで，文献に利用されるなど研究活動に役立っています．さらに研究会に役立つためには従来のように大会直前になって予稿集を読むのでなく，できれば1か月前に配布し，会員が十分時間をかけて読めることが必要です．今回からこれを実施し，建設的な討論ができるよう配慮したつもりです.

気象学会の運営は御指摘のように大学や気象庁職員の無償サービスによって支えられている面が多いのです．講演企画委員会としてもその例外ではありませんし，条件は年々きびしくなっています．委員のサービスが限界に達したと判断される現状では，できるだけ能率をあげる方法をとらざるを得ません．その上にたって，研究討論が活発になり，よいプログラムを編集し，大会をスムーズに運営するための一環として予稿集を講演申込みと同時に提出していただくことにしたわけで，会員にとっても，メリットが多いと思われます．また，地理学会やいくつかの学会ではすでに実施され，成果をあげているようです.

会員がふえ，研究活動が活発になれば従来の方法ではゆきづまるでしょう．新しい方式を生み出さねばなりません．シンポジウムを中止することは，研究発表の時間を確保するという点だけから見ると，一案でしょう．しかし各人の専門分野が細分化される傾向がみられる現在，大会シンポジウムの意義が以前にも増して大きくな

っていることも事実です．

また大会の会期を延長したり，会場数をふやす等の方法はもちろん講演企画委員会では検討ずみです．気象庁内で大会を開く場合，3会場3日間というのは，現実に実行可能な限界で，これ以上会場を確保することは気象庁の業務運営上からむりです．また民間などの会議室を借りる場合には経済的な問題がある上に，3日3会場を借りるのさえも，会場さがしに苦労して1年以上も前から予約しているのが実状です．かつて4日間大会を開いたことがありますが，そのときに現地で世話をしていただいた方々から，「気象学会の重要性を考えて献身的に努力したが，やはり3日が肉体的にも限度である．今後は絶対に4日にしないで欲しい」と強く言われました．

このような諸条件を考えた上で，春季大会，秋季大会との関連をどうするか問題は残りますが，理事会では分科会方式について討論しています．この点について多くの会員から具体的な提案や意見が寄せられますようお願いいたします．その他，大会運営全般についても今後建設的な意見をおよせ下さるよう期待いたします．

（42ページより続く）

MONEX，6月のJOCで最終承認を求めるWest African Monsoon Studyの計画案はひきつづいてねられています．POLEXの方は，やはり5月17～21日，カナダのトロントで計画会議が開かれます．内容は次信でおしらせできると思います．懸案の山越え気流（Air Flow over and around Mountains）の件も，6月のJOCでの正式承認をめざして研究会議と計画会議が5月4～10日ユーゴで連続して開かれ，lee waveと小スケールの山の影響のパラメタリゼーションの2つのテーマにしぼる方針と，ヨーロッパ・アルプスを中心とした観測区域の決定をみたようです．これもまた，くわしくは次信にゆずりたいと思います．では又．